

八雲と怪談～怖ろしくも、美しい日本～(仮)

怖ろしくも、美しい日本

<巻頭特集>2025年度後期 連続テレビ小説「ばけばけ」

「この世はうらめしい。けど、すばらしい。」小泉セツ&八雲夫妻がモデルの物語。

古き良き情緒が漂う明治時代の松江、怪談を愛する夫婦の何気ない日常。

注目の連続テレビ小説をいち早く紹介します。

<大特集>八雲怪談紀行

19世紀後半から20世紀初め、近代化によって失われようとしている文化や伝統に目を向け、

再発見した小泉八雲ことラファディオ・ハーン。

日本という異文化をこよなく愛した彼は、妻小泉セツから聞かされる日本各地の不思議な伝説や幽霊話に、日本人の心性を感じた。それは「日本人の微笑」ともいうべき、神秘であった。

『怪談』『骨董』『知られぬ日本の面影』『心』『日本人の微笑』など小泉八雲を代表する名作から、

ゆかりの地を厳選して、八雲が惹かれた「日本人の心」を探して不思議なものがたりを旅しよう。

怪談ルポの一例：耳なし芳一の話～赤間神宮(山口県下関市)～

安徳天皇と平家一門を祀る赤間関の紅石山麓にあったという阿弥陀寺(赤間神宮の前身)を舞台とし、

琵琶法師・芳一が平家の亡霊たちと相対する怪異譚である。

食人鬼(熊本県阿蘇地方で仏教文化に触れたことが怪談執筆に影響した)

むじな・ろくろ首(神戸外国人居留地跡、東京の紀尾井坂など)来日直後に滞在、異文化交流の感覚

雑司ヶ谷霊園・豊島区の旧居跡(東京帝国大学での教師時代と晩年の執筆)

小泉八雲記念館(焼津市)「葬られた秘密」など海にまつわる民間伝承

出雲大社・古代出雲歴史博物館「十六桜」などに「出雲神話」の影響を感じる

<大コラム> 松江紀行～小泉八雲とオープンマインドのころ～

松江に一時滞在了した小泉八雲は、日本で「オープンマインド」という

他者を受け入れる精神を学んだ。八雲とセツが出会い、

ともに過ごした島根での日々とは。二人が愛した風景の面影を探して。

小泉八雲旧居|小泉八雲記念館|城山稻荷神社 など



※特集内容は変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

スペース	掲載料金	サイズ
表4	1,800,000 (税込1,980,000)	269×200 (天地mm×左右mm)
表2(1P)	1,500,000 (税込1,650,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
表3	1,400,000 (税込1,540,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
目次対向	1,300,000 (税込1,430,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
4C1P	1,100,000 (税込1,210,000)	285×210 (天地mm×左右mm)

- 発売日 : 2025年9月26日(金)
- 発行形態 : 中綴じ/右開き
- 判型 : 120Pフルカラー、A4変型
- 定価 : 1280円(税込)
- 発行発売 : 株式会社三栄
- オーダー : 2025年9月3日(水)
- 校了 : 2025年9月10日(水)

全国書店及びコンビニで発売

【お問合せ】株式会社三栄 第二営業企画局 Mail : koukoku@san-ei-corp.co.jp

～この企画に関するより詳しい内容・不明点は各担当者にご連絡下さい。～